

全国のチャ産地におけるチャノコカクモンハマキの殺虫剤感受性(続報)

○内山 徹¹・浅野(内堀)美和²・秋月 岳²・小澤朗人¹

¹静岡県農林技術研究所茶業研究センター

²農研機構 生物機能利用研究部門

静岡県のチャ産地では、重要害虫であるチャノコカクモンハマキがジアミド系やジアシルヒドラジン(以下、DAH)系などの殺虫剤に対する複合抵抗性を獲得しており(Uchiyama and Ozawa, 2014; 内山ら, 2013)、生産現場では本種の防除に苦慮している。最近の本種の殺虫剤感受性は静岡県で明らかになっている(内山, 2017)ものの、全国のチャ産地では不明な点が多い。そこで演者らは、2014年~2016年にかけて静岡県を含む全国各地のチャ産地からチャノコカクモンハマキ個体群を採集し、殺虫剤感受性検定を実施した。昨年の本研究会山梨大会では静岡県を中心とした計17個体群の殺虫剤感受性を報告したが、今回はさらに全国各地の16個体群について同様に調査した結果を報告する。

【試験方法】 2014年~2016年にかけて、全国のチャ産地からチャノコカクモンハマキを合計33個体群(静岡県18、茨城県1、埼玉県1、神奈川県2、三重県2、京都府4、福岡県2、鹿児島県3)採集し、チャ葉浸漬法(小杉, 1998)を一部改変した検定法(内山・小澤, 2017)により殺虫剤感受性を調査した。薬剤は、ジアミド系3剤、DAH系2剤、ベンゾイル尿素(以下、BU)系2剤およびその他系統7剤の計14剤を供試した。

【結果】

- 1 ジアミド系に対する感受性の低下は、静岡県、三重県、京都府および福岡県の個体群で確認された。これらのうち静岡県、三重県および京都府の一部個体群では新剤のシアントラニプロール剤に対する感受性低下の兆しを確認された。
- 2 DAH系に対する感受性の低下は、静岡県、三重県および京都府の個体群で確認された。
- 3 BU系に対する感受性の低下は、静岡県、埼玉県、神奈川県、三重県、京都府、福岡県および鹿児島県の個体群で確認された。
- 4 その他殺虫剤のうち、供試個体群で総じて感受性が高かったのは、エマメクチン安息香酸塩剤、スピノシン系2剤、有機リン系2剤であった。

Insecticide susceptibility of the smaller tea tortrix, *Adoxophyes honmai* (Lepidoptera: Tortricidae), collected from tea fields in Japan.

Toru UCHIYAMA¹・Miwa UCHIBORI-ASANO²・Gaku AKIDUKI²・Akihito OZAWA¹

¹Tea Research Center, Shizuoka Research Institute of Agriculture and Forestry

²Institute of Agrobiological Sciences, National Agriculture and Food Research Organization